

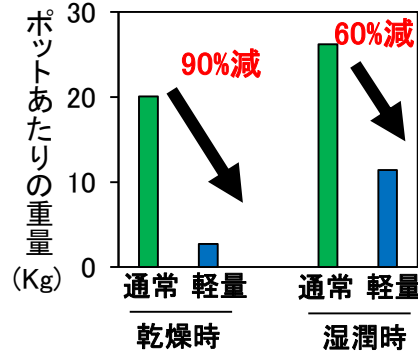
軽量培土を利用したかんきつの省力的大苗育苗

ヤシガラと粉碎もみ殻を混ぜ合わせた軽量培土の重量は、通常培土と比べて、乾燥時で約90%減、湿潤時で約60%減であり、定植時の運搬作業等の負担軽減につながる。軽量培土は保肥力が劣るが、少量多頻度施肥と組み合わせることで、通常培土と同程度の苗木を育成できる。

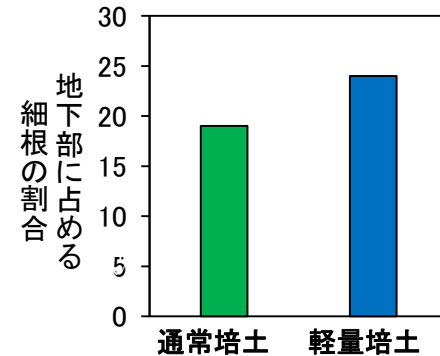
軽量培土の資材の割合

	花崗岩 土壌	牛ふん 堆肥	ヤシ ガラ	粉碎 もみ殻	ピート モス
通常培土	70%	10%			20%
軽量培土			50%	50%	

培土の重量比較



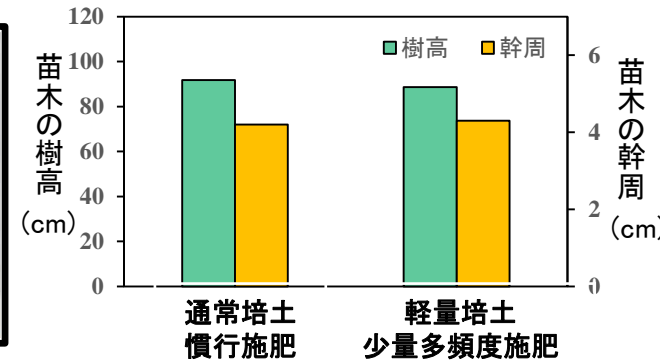
苗木の地下部の生育は同等



慣行施肥と少量多頻度施肥

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
慣行施肥	N:5g	N:5g	N:5g	N:5g	N:5g	N:5g	N:5g
少量多頻度施肥	N:2.5g ×2回	N:2.5g ×2回	N:2.5g ×2回 液肥	N:2.5g ×2回 液肥	N:2.5g ×2回 液肥	N:2.5g ×2回	N:2.5g ×2回

苗木の地上部の生育は同等



■慣行施肥: 有機配合肥料(窒素:リン酸:カリ=10:6:6)、窒素成分5gを5月~11月の間に約1カ月間隔で7回に分けて施用

■少量多頻度施肥: 窒素成分2.5gを5月~11月の間、月に2回施用および7月~9月の間、月に1回、液体肥料(尿素500倍)を葉面散布

■軽量培土は保肥力が劣るため、葉色が悪くなる傾向。こまめな施肥が重要。

■軽量培土で育成された苗木は、急傾斜園地など運搬が困難な園地への移植苗として有効。

■軽量培土を利用することで、苗木の大幅な軽量化が可能となるが、1ポットあたりの資材費は40円あまり高い。